

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
音楽セラピーⅡ Music Therapy II		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	( )	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
音楽セラピーⅠ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
岡泉志のぶ	講義棟3階	月、水、木、金		授業中に指示します
授業の概要				
音楽療法は、ストレスなどで病んだ心や体の症状を改善したり、痛みを緩和し生活の質の向上を図る目的で音楽を用いる療法である。この授業では、ホスピスでの音楽療法として、患者様の肉体的、精神的苦痛を緩和し、安らかさを保たせることに最善を尽くした方法を考案し、医療現場での音楽活用によってどのような効果があるかを検証する。音楽表現で感性を高める。				
授業の目標				
①リラックスできる音楽を選択し、音楽の力と脳に与える影響力との関連性を例証することができるようにする。 ②音楽を構成する3つの要素を認識することで、癒しの効果が期待できる音楽を選別できるようにする。 ③音楽や作品を選んで、医療現場に相応しい音楽と曲の構成を考えて、ミュージックベルの演奏ができるようにする。				
授業の方法				
演習科目として、音楽の演奏活動(ミュージックベル)を主とし、医療現場で活用できる音楽的な演奏技術の向上を図る。				
学習の成果(学習成果)				
①音楽を鑑賞する楽しさや幅広い音楽への興味や関心が高まり、豊かな感性と音楽的な教養を身につけることができる。 ②医療現場におけるホスピスの音楽療法を考え、癒しの効果を持つ音楽作品を選別することができる。 ③音楽療法を利用した心身のケアの手段として、音楽的な演奏活動の実践ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス シラバスを参考に授業の進め方や成績評価方法について説明する			
第2回目	生理的、心理的、社会的効果を持つ音楽の力			
第3回目	音楽の活用法① ー作品の選定ー			
第4回目	音楽の活用法② ー癒しの音楽活用ー			
第5回目	トーンチャイムとミュージックベル① ー実践ー			
第6回目	トーンチャイムとミュージックベル② ー応用ー			

第7回目	総合的な音楽の効果① (音楽療法とその実践)	
第8回目	総合的な音楽の効果② (音楽療法とその効果)	
第9回目	音楽活用法① (受講生の作品活用による演奏)	
第10回目	音楽活用法② (受講生の作品活用による演奏)	
第11回目	音楽活動の実践① (学外演奏)	
第12回目	音楽活動の実践② (学外演奏)	
第13回目	音楽活動の実践③ (学外演奏)	
第14回目	医療現場や施設における音楽の効果	
第15回目	音楽活動の実践を通して (レポート提出)	
事前・事後学習	事前に楽譜の譜読みやホスピスでの音楽療法について調べ、ミュージックベルでは担当する音を奏でることができるようグループでの練習をしたり個人で復習をする。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	音楽に関心を持って積極的に授業に参加している。
レポート	30%	医療現場や施設における音楽の効果についてレポート提出をする。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容 (態度含む)	50%	音楽活動の実践として、自信を持って演奏することができる。
その他		
教科書と参考図書		
テキスト、参考書：適宜、プリント、資料、楽譜の配布をする。		
履修上の留意点・ルール		
授業中の居眠り、私語、携帯電話 (使用可の場合は指示する) の使用と飲食は禁止とする。使用教室 (MR I) は土足禁止である。		